

第一学年 国語科学習指導案

国語教育専修 3 回生 177521 坂元亜衣

1. **単元名** 5いにしへの心に触れる-古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える-
教材名 「月に思う」（光村図書1年）

2. 単元の目標

- ・日本特有の文化である和歌に触れ、言語文化に親しみ、特に歴史的仮名遣いや暦について理解することができる。（知識・技能）
- ・「月」について詠まれた和歌を進んで調べ、和歌を詠んだ当時の人々の心情や背景について考えたことを適切に表現することができる。（思考・判断・表現）
- ・日本の文化である和歌を過去から現在、現在から未来へ受け継いでいくためにできることは何かを考え、行動に移すことができる。（学びに向かう力、人間性等）

3. 単元について

（1）教材観

本単元は「竹取物語」や「徒然草」を取り上げ「月」を題材に自然の美しさについて述べられた随筆である。古代から「月」は美しいものの象徴とされ、歌だけでなく物語や随筆といった多くの文学作品に描かれてきた。月明かりを頼りに暮らしていた古代の人々にとって「月」は愛でるべき対象であり、生活に密着した天体であったといえる。しかし、他の国では、例えば、狼男に代表されるように「月」に対して不吉な印象をもつ国や地域もある。これは日本とは真逆の考え方であり、文化の違いによるものだと考える。よって、真逆の考え方とイメージをもつ「月」を比較する学習活動を通して月に対する考え方が深まるのではないかと考える。

また、教科書の本文に記載され、小倉百人一首から引用されている「秋風にたなびく雲の絶え間よりもれ出づる月の影のさやけさ」を取り扱う。この歌は美しい月の代表とされてきた一点の曇りもない姿を歌うのではなく、月が見せるさまざまな姿の中の一瞬を切り取っている。このような光景は現代に生きる私たちも目にすることができるが、歌の意味を知ることによって新たな月の美しさに触れ、それに向かい合ったときの自分自身の心の有り様に気付くことができるのではないかと考える。

さらに、奈良に目を向けたとき万葉集では「月」を題材にして歌われた和歌が20首ある。万葉集は奈良時代の後期に作られた日本最古の和歌集であり、庶民から貴族までといった幅広い階級の人々の歌が集められている。自分が住んでいる地域で詠まれた和歌を題材に

することは生徒にとって親しみやすいのではないかと考える。

（2）生徒観

小学校では古典に親しむことが目標とされているため、歴史的仮名遣いや文法といった知識をもっている生徒は少ない。また、現在使っている言葉と違ったり、現在使っている言葉であるがその意味が違ったりするため「読みにくい」、「意味がわからない」といった苦手意識をもつ生徒が多い。

そのため教科書の本文を取り扱う際にはクラス全体で歌に隠された意味や世界観を読み取りたい。また奈良で実際に詠まれた和歌を取り扱うことで苦手意識を克服したい。

（3）指導観

指導にあたってはまず、学習の見通しを持たせるために月をテーマにした外国の歌を聴き外国における月の印象を捉えたい。また日本の歌である「月月に見る月は多けれど月見る月はこの月の月」との比較を行い、月に関する印象の違いを捉えたい。この歌は「月ごとに月を見て楽しむ月は多いけれど、名月として見る月といえば今月の月だね。」という意味であり、日本語では空に浮かぶ「月」も、一月・二月というときの「月」も、どちらも「月」と書くのでこの両方の意味を取り入れた歌となっている。この歌で古代から月は美しいと捉えられていたとわかる。月に関する印象の違いは文化の違いによるものであることに気付かせ異文化理解に努めたい。

次にここで歌われる名月とは中秋の名月と言われる8月15日を指すのであるが、「中秋の名月とはいつであるか」を生徒に尋ねることにより、現代の中秋の名月とされる9月15日と比較させ、なぜ1ヶ月もずれが生じているのかについて考えさせたい。古代の中秋の名月が8月であることはこの歌に月が8回使われているという言葉遊びから、現代の中秋の名月が9月であることは猿沢池で行われる采女祭が9月であることから違いに気付くことができる。暦がずれる理由としては、昔は現在と異なり月の満ち欠けに合わせて暦を使っていたからである。新月になる日を月の始まりと捉え各月の1日として用いていた。昔の人が使っていた暦を旧暦と言い、現在の暦（新暦）とは1か月ほど後ろにずれが生じている。季節においても春を1月から3月、夏を4月から6月、秋を7月から9月、冬を10月から12月と分け、この季節に基づき古典は書かれている。そのため旧暦の秋のちょうど真ん中である8月15日の夜の月は「中秋の名月」とされ大変美しいものとして古くから鑑賞されてきたのである。このことを調べ、暦と季節の違いを確認してほしい。

そして学習材を活用し、藤原顕輔の詠んだ歌について全員で考えたい。掲載されている歌の意味について考える時間を最初にとることで和歌の言葉や意味に着目することができる。その際、歌に出てくる言葉「さやけさ」の意味を考えてもらいたい。「さやけさ」とは「清

く澄んでいること。すがすがしいこと。」といった意味である。しかし現代の日常生活で用いることはない。これは「さやけさ」が昔に使われていた言葉であるからである。このことに気付かせ古語についての関心も高めたい。その後学習材を読むことで和歌の意味を知ることができ、より興味を持つことができると考える。

さらに万葉集の「月」を題材にして詠まれた和歌のうち9首からお気に入りの和歌を選び、その和歌の意味やイメージを個人で考える活動を行う。9首は奈良市の月の歌であり、生徒にとって親しみを持ちやすいと判断する。選んだ和歌の意味やイメージについての考えを友達と交流することで新たな見方を得ることができる。またインターネットや文献を活用してさらに考えを深めてもらいたい。

最後に月をテーマにした和歌を自分自身で作り、発表する活動を取り入れる。実際に月を眺めながら自分の言葉で歌を作る活動を行い、オリジナルの歌集を発行する。歌を作る経験を通して古くから親しまれてきた文化に触れ、文化の継承を目指したい。また100年後まで残る歌作りを目標にすることで作成意欲を高めたい。

（4）ESD との関連

・学習を通して主に養いたいESDの視点

【多様性】あらゆる国や地域において月に対する印象が日本とは異なっていることに気付くことができる。

【責任性】後世から受け継がれている和歌について学び、自分で和歌を作る学習活動を通して未来に繋いでいく責任を理解することができる。

・学習を通して主に育てたいESDの資質・能力

【システムズシンキング】和歌を文法や単語中心ではなく言葉遊びとして捉えてみたり、作者の立場に立って考えたりと多面的に捉えることができる。

【コミュニケーション力】和歌のどの部分に共感したのか、興味をもったのかなど、自分自身が感じた魅力を相手に伝えることができる。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力、人間性等
・日本特有の文化である和歌に触れ、言語文化に親しみ、特に歴史的仮名遣いや暦について理解しようとする。	・「月」について詠まれた和歌を進んで調べ、和歌を詠んだ当時の人々の心情や背景について考えたことを適切に表現しようとしている。	・日本の文化である和歌を過去から現在、現在から未来へ受け継いでいくためにできることは何かを考え、行動に移そうとする。

5. 学習活動の概要（全7時間）

次	時間	主な学習活動	学習への支援
1	1	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月をテーマにした外国の歌を聞き、思ったことや感じたことを伝え合う。 ・月に関する言葉遊びの和歌を提示し、意味やその面白さについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・○○○○○を聞き、外国において月に対する印象を考えるように促す。 ・和歌の文中に入っている月についてその面白さを話し合うよう促す。
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「月月に月見る月は多けれど月見る月はこの月の月」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・上記二つの歌を比べる。 ・現代の暦や季節との違いに気づき、なぜズレが生じているのかについて調べる。 	
2	3	<p>○学習材を活用し、藤原顕輔の詠んだ歌について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤原顕輔の和歌をプリントで配布し、和歌の意味について個人で考え、全体で交流する。 ・「さやけさ」の意味について個人で考え、その考えをもとにグループで考え合う。 ・「月に思う」を全体で読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌にある言葉からイメージを膨らませるように促す。 ・日常生活において「さやけさ」を使う場面を想像し、意味を考えるようにする。 ・自分の考えや友達の考えと学習材の違いや共通点について意識するようにする。

3	4	<p>○「月」を題材にして詠まれた和歌、9首からお気に入りの和歌を選び、その和歌のイメージや意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ和歌のイメージや意味について自分の考えを持つ。 ・自分の考えを元に同じ和歌を選んだ者同士交流し、自分の考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの和歌に書かれている言葉に着目するよう促す。 ・自分の考えと友達の考えとの共通点や相違点について意識する。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ和歌の意味について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや文献を活用するようにする。
4	6	<p>○月をテーマにした 100 年後まで残るような和歌を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に学級全体で月を眺めながら、歌を作る。 ・作った歌を短冊に書き、掲示するとともに「坂元集」を発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを言葉に凝縮するよう促す。 ・友達の作品のいいところを見つけるように促す。